

Festina lente



仁平 ふくみ

NIHIRA Fukumi

京都産業大学 外国語学部 助教
専門分野：ラテンアメリカ文学

略歴

早稲田大学第一文学部卒業。立教大学文学研究科比較文明学科修了。立教在学中に日墨交換留学生としてメキシコ国立自治大学の哲・文学部に1年留学。東大在学中に平和中島財団奨学生としてメキシコ大学院大学言語学・文学研究センターに2年半留学。東京大学人文社会系研究科現代文芸論研究室単位満期取得退学。2016年から現職。

最近の主な論文・評釈

◆論文:

「国民作家の創造 ―ルルフォと1950年代批評」
『ラテンアメリカ研究年報』33号、2013年、pp. 1-27.

“Posibles razones de la modificación de “El Llano en llamas”, de Juan Rulfo”,
Hispanica, 58号、2014年、pp. 85-112.

◆寄稿:

“La recepción de las obras de Juan Rulfo en Japón”,
en El Llano en llamas. Reflexiones académicas. 2015年

“Comunicación con el otro mundo: Pedro Páramo y el teatro japonés noh”
en Pedro Páramo 60 años. 2015年

研究テーマ

メキシコの作家フアン・ルルフォを中心とした研究をしています。メキシコでルルフォがなぜ国民的作家の位置におかれることになったのか、当時の歴史的状況や文壇の言説などを分析することで検証しています。また最近、ルルフォが、スペイン人による新大陸の征服をどのように解釈し、記述したのかにも興味を持つようになりました。現在は、ルルフォ作品とメキシコの歴史との関係、権力と記述についての表現を調べています。

研究の道へ進んだきっかけ

大学入学時は漠然と出版関係の仕事につきたいと思って

いたのですが、在学中にラテンアメリカ文学を知り、もっと詳しく知りたくなってしまいました。

研究者になってよかったと思うこと

苦しいときが多いですが、自分の好きなことを仕事にできるところ。仲間と勉強会をするのも楽しいし、なかなかうまくいきませんが論文を書いたり学会発表をして、何らかの反応をもらったときがうれしいです。

座右の銘

座右の銘はとくにないです。よく思い出すのはFestina lente. というラテン語のフレーズです。「ゆっくり急げ」という意味で、

研究紹介

2013年はルルフォの短編集『燃える平原』、2015年は小説『ペドロ・パラモ』のそれぞれ出版60周年だったため、メキシコの研究書に寄稿しました。そのうちのひとつでは、編集者からのリクエストもあり、ルルフォ作品と日本の能楽との共通点(!)について書きました。死者との関わり方、死者との交流の表現の仕方において共通する点があることを論じました。どちらの作品も、文学が目に見えないものをどのようにすくいとるのか、という一例を示していると思います。



BEST SHOT

留学で、尊敬できる先生方、信頼できる研究仲間と知り合い、研究会をしたり学会発表に行けたことがとてもありがたいことでした。仲間たちとはそれぞれ研究している地域や時代は違うのですが、交流を通してとても刺激をうけています。個人的なことも話しますし、論文を集めて本にしようという計画がいくつか進行中です。



My Hobby

映画鑑賞、読書、旅行、おいしいおやつを食べることなど。メキシコでは料理と野良犬の写真を撮るのが楽しかったです。日本には気軽に寄って来て遊んでくれる野良犬がおらず、とてもさびしいです。

実現は難しいですがなんとなくいつも頭の隅にあります。留学中ラテン語のクラスを最初にとったとき、先生が全員にこの言葉が書いてある缶バッジをくれました。

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊
ボルヘスの短編集『伝奇集』を読んだときに、「世界は自分の認識次第でどのようにも変わるし解釈できるんだ!」というもうすごい解放感をもったことを覚えています。学生のうちにいろいろなジャンルの本を読むといいと思います!



未来の研究者へ一言

いろいろな意味であきらめないことが大事だと思います。あと自分を客観的に見て修正していくことができると楽だと思います。

